



【編集・発行】NPO法人金澤町家研究会／広報交流部会

## ■金澤町家研究会シンポジウム&全国町並み保存連盟北陸・甲信越ブロック大会開催しました

NPO法人金澤町家研究会は、今年、設立から20年目を迎えました。節目にあたり、これまでの活動を振り返りつつ、今後の金澤町家研究会の活動の展望について皆様との意見交換の場としてシンポジウムを開催しました。なお、本シンポジウムは全国町並み保存連盟北陸・甲信越ブロック大会を兼ねて開催いたしました。

### ◆シンポジウム「金澤町家研究会のこれまでとこれから」 [👉シンポジウム詳細（金澤町家研究会ホームページ）](#)

日時：2024年6月22日（土）13時30分～17時30分

会場：金沢学生のまち市民交流館交流ホール

≪第1部≫ NPO法人金澤町家研究会 令和5年度の主な活動報告

≪第2部≫ パネルディスカッション／意見交換

テーマ『金澤町家研究会の歩みとこれからの展望』

#### ◎パネリスト

岡崎篤行・NPO法人全国町並み保存連盟理事、新潟大学教授、博士(工学)  
新潟県都市計画審議会会長

白石英巨・金沢大学人間社会研究地域創造学系講師、博士(工学)  
金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員

林 正人・林建築設計工房代表、一級建築士、歴史的建造物修復士

松本有未・ことのは不動産(株)代表取締役、宅地建物取引士、  
NPO法人綴る代表理事、(一社)金澤町家活用推進機構理事

#### ◎コーディネーター

川上光彦・NPO法人金澤町家研究会理事長、金沢大学名誉教授、工学博士、石川県都市計画審議会会長

≪第3部≫北陸・甲信越ブロック/団体活動報告

新潟まち遺産の会(新潟)、一般社団法人雁木のまち再生(新潟)、NPO法人歴町センター大聖寺(石川)、土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会(富山)、若狭熊川宿まちづくり特別委員会(福井)、NPO法人全国町並み保存連盟



会場の様子

### 【NPO法人金澤町家研究会・川上光彦理事長 あいさつ】



私ども金澤町家研究会は活動をスタートして20年目に入ります。市民活動は私たちにとって手探り状態のスタートで、試行錯誤しながら現在まで来ました。当初から金沢市とも連携し活動して

来ました。20年を振り返ると色々なことがありましたが、一定の実績もあったと思っています。

今回、新潟まち遺産の会の大倉代表から、2年に1回開催している全国町並み保存連盟北陸・甲信越ブロック大会を、是非、金沢でやってほしいとお話をいただきました。これからの活動を展望するにあたり、このような機会にシンポジウムを開催し、金澤町家研究会の活動について知っていただくとともに、お互いの活動について報告し合い、元気をもらい、気持ちを新たに組みたいと思っています。

### 【第一部：令和5年度の主な活動報告】

#### ■活動報告「金澤町家巡遊2023」

坂本英之 理事

2008年から継続し今回が16回目の開催となった「金澤町家巡遊2023 町家の夏休み in 東山」の開催・活動報告



#### ■活動報告「彦三町家のひなまつり」

馬場先恵子 監事

金澤町家学生会議や金澤町家友の会とともに企画した「彦三町家のひなまつり」(2024年3月)の開催報告



#### ■金澤町家流通コーディネーター事業の報告

事務局 古村尚子

14年目に突入した金澤町家流通コーディネーター事業(金沢市受託事業)の概要説明と令和5年度の実績報告、問題・課題

## 【第二部：パネルディスカッション】

### ■金澤町家研究会の活動の歩み：川上光彦

金澤町家研究会は2005年に任意団体としてスタートし、今年20年目の節目となりました。手探りに試行錯誤し事業を進めてきました。我々よりも10年程先行して活動していた京町家再生研究会に触発され、金沢でも市民活動としてスタートし、2008年にNPO法人化して今に至っています。

これまでの活動を総括すると、金沢市が歴史的な建築物の改修・利活用を本格的に始めるときに我々も市民活動としてスタートして、現在まで連携してきました。

今後の活動の展望は、改修と利活用の支援について、継続的に活動していく必要があるということと、改修や利活用システムの構築については、法制度がまだまだ歴史的な建築にとっては厳しいところがあり、検討していく必要があるため、いろいろな仕組みや工夫も必要と思っています。

### ■建築設計士からみた金澤町家研究会の歩み：林 正人

1996年「金沢職人大学校」開校、2001年「東山ひがし」の重要伝統的建造物群保存地区指定、その4年後の2005年に金澤町家研究会(金澤町家継承活用研究会)が設立、2009年に金沢市の「歴史都市」第1号認定ということで、金沢市が約20年の間着々と施策を続けていた時期に研究会の設立があります。

住宅改修や“リノベーション”は建築設計業界では日陰の存在で、2005年に事務所を開設しておりますが、個人的に改修を仕事にしてよいのかというイメージでした。職人が胸を張って仕事ができる歴史的な町であったことが設立の背景としてあるのではないかと思います。

町家を好きになってもらう、その活動が金澤町家研究会の一番得意な活動で、金澤町家巡遊はそれを強く感じ、安定感がありますし、「NPO(特定非営利活動法人)」というのは社会貢献活動が存分にできる場所であり、公正な信頼される団体というイメージなので、このような立場を使って新しいことをもっと進めていくとよいと思っています。

### ■金澤町家の流通と活用—当社の取り組みと金澤町家研究会への期待：松本有未

大学卒業後に出版社に勤め、古い建物に興味があったので、菊川で長屋を借りて住み始めました。その頃の不動産情報は主にフリーペーパーや有料雑誌で情報を探しますが、町家や古家は載っておらず、不動産屋の窓口に飛び込みで入りました。

出版社を退社後、不動産業界に入り、そこで宅建士資格を取得、2014年に「ことのは不動産」を開業しました。

開業して早々に関わった3軒長屋の町家の賃貸物件は、壊してアパート建築の話もありましたが、金沢市の町家改修の

補助制度を活用し、住居兼店舗として募集しました。コロナ直前に賃貸契約いただいた大型町家の物件は、借主側の改修費負担も大きいため、活用が進まず難しい面もありましたが、現在、レストランとして活用されています。2019年には自社で町家を買って、直して、再販売する「編むプロジェクト」を開始しました。相当傷んでいたため、改修費は安い新築住宅と同等の金額となりましたが、町家暮らしに憧れていた方にお住まいとして購入いただきました。

金澤町家研究会の取り組みや、市の補助金制度、新幹線効果や移住者の増加などの外的要因もあり、町家の価値が認知されたと思います。町家の耐震改修工事については情報も少なく、需要が出てきたからこそ、勉強会をしていただけないのではと思っています。また、税制の矛盾も町家の流通を阻害している要因となっています。

### ■研究者からの現場報告：白石英巨

2年前に金沢大学に着任するまでは民間のコンサルタント会社で発展途上国のインフラ開発支援、都市交通マスタープランなどの仕事に携わっていました。

大学の頃から東南アジアの町家(ショップハウス)の調査をしています。カンボジアのプノンペンでは、4階建ての中層のショップハウスが建ち並び街区を作っていますが、真横に高層の建物が建ち、景観が破壊される問題も起きていますし、住民が立ち退きに合い、コミュニティが無くなるなどの都市問題や、景観や住人の生活変遷、建物の図面を取り、人がどう住んでいるかなど調査しています。

私なりに研究者として金澤町家に関係する案として、町家が具体的にどのような要因で減っているのか、特性による町家の活用、状況の違いなどから特定できれば、施策に反映、活用できるのではないかと思います。また、歴史的な景観の保全・継承に向けて具体的にどのように町家が残っているのか現状を把握すること、実際に町家がどのように活用されているのか可視化するなどで整理ができれば、これから町家を活用したい方の参考になると思います。それらは、金澤町家の特徴を捉えてどのように残していくのか研究と一般向けの指針、情報提供になるのではと考えます。

金澤町家研究会の知識、経験、ネットワークを活用して、研究に展開し、個人として研究者として成果を広く一般に公表して町家の利活用に役立てたいと思います

### ■新潟まち遺産の会の活動から：岡崎篤行

新潟は金沢や京都と同じく空襲を受けておらず、歴史的港湾都市ですが、全国的にも新潟市内でもそのイメージは定着していません。新潟大火や新潟地震もありましたが、被害は限定的だったため、多数の町家が残っていますが、2000年頃まではその価値の認識も低く、大倉代表が孤軍奮闘で保存

活動を行っていたところに、私が新潟大学に着任しました。

ある住宅専用の町家について、見学会や活用を探る取り組みを行っていたところ、他からも相談が来るようになり、この活動が発端で2004年に「新潟まち遺産の会」が発足しました。

大正10年建築で副知事公舎として使用された洋館付き和風住宅が売りに出される際には、他団体と働きかけレストランとして新たに活用され、廻船問屋の別荘が手放される際にも保存運動や署名活動により、市が購入し国の名勝となるなど、様々な活動をしてきました。金沢で言うところの茶屋街である「花街」のマップを作成し、毎年、一般向けのお座敷体験なども企画しました。

金沢の活動はとても充実していますし、我々も市民への普及マップはできていますが、不動産的なところや、子供向けの町家巡遊のような取り組みもこれから充実させていきたいと思っています。



### 【第三部：北陸・甲信越ブロック/団体活動報告】

#### ■新潟まち遺産の会（新潟県新潟市）

旧第四銀行住吉町支店の保存運動や界隈の町家の解体移築支援のため、署名運動や行政への働きかけ、募金活動等を契機とし、町家や歴史的建築物の価値や魅力について知ってもらうことを目的に2004年に会が発足しました。町家や洋館付き住宅の紹介、古町花街のマップ制作、毎年花街イベントや、最近では萬代橋周辺の景観に関する勉強会なども行っています。

私たちの会も今年で20周年となり、まちづくりには歴史を大事にすることとともに、賑わいの創出も大切だと思いますので、「みなとまちの賑わいをとりもどす」と題したシンポジウムを8月に予定しています。

#### ■一般社団法人雁木のまち再生（新潟県上越市）

2007年に高田駅近くにある間口20m、奥行50mの大型の商家の改修設計に関わり、「高田小町」が開業し、ここから町家の再生、活用が始まりました。

この頃、民間でも古い映画館やミュージアムの町家再生が行われましたが、NPOや公共だけでは町家は残っていかな

いので、2015年に一般社団法人雁木のまち再生を立ち上げて、町家を取得し活用者とのマッチング事業と、営利活動可能な合同会社も設立し活動しています。

これまでに関わった町家をマップに落としてみると、公共施設、飲食店、本屋、カフェなど、若いメンバーの価値観を活かし、随分事例が増えてきました。

#### ■NPO法人歴町センター大聖寺（石川県加賀市）

1994年に前身団体がスタートし、2001年にNPO法人化して、約30年の活動の歴史があります。町家については加賀市に町家再生室がありましたので、私たちは主として武家屋敷の再生を進めました。

ここ数年は子供たちに大聖寺の素晴らしさを知ってもらいたく、子供を対象とした「ふるさと学習」が中心です。

2021年3月に大聖寺を中心として歴史都市認定を受けましたので、2022年4月に歴史都市記念フォーラムを開催し、今年3月の北陸新幹線延伸に向けて、2022年から歴史都市セミナーとして連続講座を行い、現在も継続しています。

マップの制作や「ふるさと学習歌巡り」を学校に配布するなどして、大聖寺の良さを知ってもらう活動を行っています。

#### ■土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会（富山県高岡市）

高岡市は2つの国宝寺院、2つの日本遺産、「山町筋」「金屋町」「吉久」3つの伝統的建造物群保存地区のある歴史都市です。

町並み保存の取り組みとして町家の修理事業や銀行等の跡地を活用した防火施設、防火水槽整備事業、無電柱化、道路修景整備事業などがあります。

山町筋というのは「御車山」を持つ町内ということで、元々は土蔵造の本屋、新聞販売店だったところを市が取得し、鉄筋コンクリートの土蔵風の建物を建てて「高岡御車山会館」として活用しています。「山町ヴァレー」は「谷」と「シリコンバレー」を掛け合わせて人の集まる場所という意味で、10年以上前から空き家となっていたランドマーク的存在の元文具店の建物を第三セクターの不動産会社が取得し、八つの蔵にそれぞれテナントを募集し活用しています。10年以上空き家だった町家を、若い方がゲストハウス開業のため改修するなどの活用も進んでいます。

#### ■若狭熊川宿まちづくり特別委員会（福井県若狭町）

江戸時代から海産物を京都へ運ぶ幹線ルートの宿場として発展し、90世帯240人が暮らす非常に小さく、周囲を自然に囲まれた場所です。1975年（昭和50年）に河内川ダムの工事により水没する茅葺の家を調査するため福井大学の研究者がたまたま通られて、熊川宿を発見したということです。

1981年に町並み調査が行われ、その年に熊川宿町並みを守る会が設立されましたが、住民はあまり乗り気ではなく、その後、熊川小学校の生徒と一緒に町並みの調査を行って、段々と住民にも浸透していきました。

平成7年に若狭熊川宿まちづくり特別委員会として活動を始め、翌年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。ハード面の調査や町並み通信「鯖街道熊川宿」の発行、平成27年には日本遺産に認定され、熊川まちづくりマスタープランの策定、熊川城跡の整備、防災まちづくり計画の策定などしました。

空き家対策として、東京から移住された方が街道シェアオフィスを開業するなど、行政、民間事業者、地域が連携し、空き家活用を進めています。

### ■NPO 法人全国町並み保存連盟

1974年に、「妻籠を愛する会」「有松まちづくりの会」「今井町を保存する会」の3団体で設立しました。その頃、文化庁も伝建制度の準備を進めていたため、全国に呼び掛けたところ5団体が加盟し、1975年に「全国」町並み保存連盟に改称し、2003年にNPO法人化しました。

伝建制度が出来た当時は制度そのものがどのようなものか分からず、金沢、倉敷、高山は既に条例が出来ていましたが、その条例と伝建制度のすり合わせに悩んでいましたので、研究者、行政に呼び掛けて勉強会として「全国町並みゼミ」が始まりました。第5回の東京大会が契機となり東京事務所が発足し、個人会員制度、瓦版の発行が始まりました。

2006年に全国町並みゼミ九州ブロック大会が開催されて以降、ブロック活動が盛んとなり、第一回北陸甲信越ブ

ック大会は、大聖寺で開催されました。

現在、67団体、145人の個人会員がおり、毎年全国でゼミが開催されるようになり、情報交換を進めながら、活動を広めることも連盟の役割と思っています。

### 【NPO 法人金澤町家研究会・増田達男副理事長

#### 総括・閉会のあいさつ】



20年を振り返りつつ、工夫しながら歩んできたとしみじみと思い返しておりました。マンネリ感や、若返り、耐震など、多くの課題を抱えています。

皆様のご発表には、「好き」という思いがひしひしと伝わってきました。その情熱に元気づけられます。連携、拡大、ネットワークという言葉もいただきましたし、子供向けなど多くのお勧めをいただきました。

設立し、何も分からない状態で歩み始めた頃はいろいろな苦労もありましたが、その折に、川上理事長はいつも「楽しくやりましょう」とおっしゃっていました。

本日の学びを、これからの新たな取り組みに結び付けて参りたいと思います。



シンポジウム 2024 開催報告書の完全版を読む>>> [NPO 法人金澤町家研究会シンポジウム 2024 開催報告書](#)

### ■令和6年度（2024年度）定期総会を開催しました

6月22日（土）シンポジウム開催前に、令和6年度定期総会を開催しました。

#### ■令和6年度 特定非営利活動法人金澤町家研究会定期総会議決結果

日時：令和6年6月22日（土）13：00-13：20、会場：金沢学生のまち市民交流館交流ホール

正会員総数：30名／本人出席10名、委任状による出席10名、計20名（議決権総数の2分の1以上）

議案 第1号議案	令和5年度事業報告について	賛成20名、反対0名
第2号議案	令和5年度収支報告および監査報告について	賛成20名、反対0名
第3号議案	令和6年度事業計画案について	賛成20名、反対0名
第4号議案	令和6年度収支予算計画について	賛成20名、反対0名
第5号議案	理事増員の件について	賛成20名、反対0名

結果 すべての議案について、満場異議なく議案のとおり可決されました。

NPO法人  
金澤町家研究会

#### 【お問い合わせ】 事務局

〒920-0854 金沢市安江町4番20号

Tel. 076-254-0647 / fax. 076-254-0657

E-mail [kanazawa-machiya@nifty.com](mailto:kanazawa-machiya@nifty.com) <http://kanazawa-machiya.net>